

きらめき

三原市立深小学校
4 年学年通信
5 月 16 日 NO. 8

ひょうたん・へちまの芽ができました

大型連休、春の遠足が終わり、さて切り替えて勉強モード！！…とするのは、なかなか難しいですが、4年生12人、頑張っています。しかし体調を崩している子どもがでてきていたり、忘れ物が増えてきたりしていますので、私自身も気をつけていきたいと思っています。5月前半の音読、リコーダーカードは配布を忘れており、すみませんでした。

今、理科ではひょうたん、へちまを育てています。4月下旬に種をまき、連休あけにかわいい芽ができました。これからの成長が楽しみです。

ひょうたんの芽



5月11日に、ひょうたんの芽がでていました。このポットからは芽の成長が異なる3つの芽がでてくれて、なんて観察に丁度よい！理科の時間に、みんなで記録をとりました。

今からまだまだ大きくなります。秋にはころころとしたひょうたんができるように、子どもたちと大切に育てていきます。

運動会の練習 開始

今年の運動会も、3、4年生でエイサー「海ヤカラー」「安里屋ユンタ」を踊ります。教えてもらっていた去年とは違い、今年は自分たちが3年生を教える立場になりました。今年は、体も心も成長し、さらにダイナミックなエイサーを保護者の方々にお見せできるよう練習をがんばっています！汗をたくさんかくので、タオルとお茶を持ってこさせるようにしてください。

安里屋ユンタ

「安里屋ユンタ」は安里屋クヤマという歴史上の存在した女性が主人公として歌われている沖縄民謡です。竹富島に1738年、琉球政府から役人が派遣されてきました。その中の一人「目差主」という身分の者からクヤマはプロポーズを受けました。

プロポーズと言っても、正妻ではなくて現地妻のようなものであったようですが、いずれにしてもクヤマはこのプロポーズを断りました。「目差主」という身分は今で言えば村の助役のようなもので、村長の下身分です。そのため、クヤマは私は助役の妾になんかなりたくない、なるなら村長の方がいいと言って断ったわけです。断られた「目差主」が悔しさのあまり（かどうかは知りませんが）、「そうかい、それじゃおまえなんかよりもっと綺麗な女性を見つけてやるわい」と、近くの仲筋村まで走って行きました。その途中に、綺麗な女性を見つけ、その女性にプロポーズし、めでたく結ばれ故郷に連れて帰り、なんやかやと可愛がったという、その過程を歌にしたものが本来の「安里屋節」でした。

この当時、役人は絶対的存在であり、民衆が役人の要求をはねつけるなどは考えられないことでした。だからこそ、クヤマの話は民衆に勇気を与えるものとして唄にまでなったわけです。

